

# 熱気の中、1周年のつどいに150名超 お互いさま事業の体験発表等に盛りあがる



▲藤井運営委員長「毎年、中川原町民ももっと参加して、こうした集いを開いて行きたい」

7月13日「中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター1周年のつどい」が行われ、会場には中川原町内外から関係者を含めおよそ150名の方の参加を得、また、洲本市副市長、洲本市教育委員長、厚生労働省自立支援室長からも挨拶を頂きました。(2面に続く)

## ふくろう新聞

<発行>  
特別養護老人ホーム  
淡路ふくろうの郷  
広報委員会  
洲本市中川原町中川原28番地1  
TEL:0799-25-8550  
FAX:0799-25-8551  
ホームページ  
<http://hyoufuku.main.jp/>  
メール  
[info@hyoufuku.main.jp](mailto:info@hyoufuku.main.jp)



▲今年の目玉!ブタの丸焼き!!

ふれあいセンター1周年のつどい終了後、淡路ふくろうの郷では恒例の収穫祭&バーベキュー大会が行われました。はじめに、収穫した夏野菜と今年が目玉である「ぶた」を乗せた神輿を担いで、入居者さんとボランティアの方々と作業担当職員で各ユニットを回りました。元気で楽しそうなかげ声が聞こえていました。

### 沖繩産 アグー豚の丸焼き 〜収穫祭&バーベキュー大会〜

旧中川原中学校グラウンドで工事が進められていた洲本給食センターの完成式が、去る7月25日(木)に行われました。  
2学期からはここから洲本市内全校(小学校8校、中学校4校)においておいしい給食が提供されます。

そして、バーベキューでは、98人の方が参加して下さいました。開会式では、大矢施設長をはつて下さりました。参加者や入居者のみなさんも興奮気味で、皮は硬かったです。が、中身は柔らかく「美味しかった」と好評でした。岐阜県より来られた団体「いぶき」の方々が大矢施設長と入居者の竹邊さん、ボランティアの藤村さんを仮装して下さい盛り上がりしました。ふくろうの郷の中を回り、皆も「誰?誰?」と騒いで

はじめ、自治会会長の入居者・黒崎時安さん、中川原地域の北岡肇会長、淡聴協の斉藤勇会長が挨拶して下さいました。また東京の羽田手話サークルの方12名と、京都の立命館大学教授の石倉先生も1周年のつどい後参加され、お話を頂きました。目玉である「ブタの丸焼き」は沖繩地方のアグー豚を注文しましたが、本当にインパクトがあり驚きました。ブタを神輿に乗せ、皆さんに見ていただけるように回つて下さりました。入居者さんや参加して下さいましたみなさんが美味しく食べていたり、様々な交流を楽しまれてる姿を見て、何より良かったと感じました。来年の目玉は何でしょう?来年の夏も楽しみですね!



▲バーベキューに舌鼓を打ち、会話が弾む♪

(生活支援係 石川富美)



▲厚生労働省企画課自立支援振興室 君島淳二室長

みなさんこんにちは。私の名前は君島(きみじま)と申します。みなさんが以前から待ちに待っていた施設だと、聞いておりました。どんな施設なのかなと楽しみにしておりました。

のんびりした雰囲気伝わり、暮らしている方々の表情がとても良く、365日良い生活をしているのだと思うなど、やはり来てよかったなと思

いました。

先ほど、校舎の中で地元の野菜を使った野菜カレーと事業所が焼いたパンをいただきました。洲本の豊かさが詰まった味だと思いました。

この取り組みが10年20年と続くように、できましたら若い方たちが戻って来るように祈っております。本日はおめでとうございます。

(当日挨拶より抜粋)

### 「今まで」と「今から」を語り合う時間

#### 中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター1周年のことば

つどいは、ふれあいセンター運営委員会会長藤井一男様から開会のあいさつに、「2年目のスタートに向けより多くの人に利用されますよう皆様でもっとこの輪を拡張発展させましょう」のあいさつで始まりました。

来賓のみなさまからはお祝いの言葉をいただく中、厚生労働省より視察にいられた君島淳二様は、手話で自己紹介をされました。

閉校となった中川原中学校の校舎内に完成してからの1年、ふれあいセンターの事業、「おたがいさま中川原」と「ふれあい広場桜ヶ丘」を通じて地域と世代を越えた新たな交流が生まれはじめました。

事務局から1年間の主な経過報告のあと、利用者・依頼者・コーディネーターの3者が意見交換を行う場を用意しました。

利用者の方から「助け合い、学び楽しみ 一周年 ふれあい広場に 花と人の輪」と、1周年を祝う短歌を詠んでくださり、毎週来られている利用者の方からは「木曜日に来ることが楽しみ。いきいき百歳体操やパッチワークをするのもいいけど、集まっておしゃべりできることがうれしい」と、感想をお話しになられ、また、「おたがいさま中川原」に依頼され、庭の草引きや家具の組立てなどの応援に来てもらった方へ改めてお礼と感謝の言葉を伝えておられました。



▲ふれあいセンターへの思いを話していただきました

応援者の方からは「身体が動ける限り応援活動します」と力強いコメントも。

(担当: 神代雅司)

### 各地から祝福に!

ふれあいセンター1周年のお祝いに3月に出前講座としてお招きくださった東京の羽田手話サークルの方々、5月に黒崎さんの取材にいられた岐阜の劇団いぶきの方2名が駆けつけてくださいました。

1周年の集いのあとには、入居者さんといっしょにバーベキューを楽しんでいただきました。劇団いぶきの方たちからは、前日にアロママッサージとバーベキューでのコスプレのサービスを頂きました。

どうもありがとうございます。



▲コスプレの恰好のままで記念撮影

### 自分史をテーマに

#### ふくろう出前講座

#### 手話サークル すずらん

7月9日(火) 手話サークルすずらんの要請で勝楽夫婦、北風章子さんが話されました。それに大家施設長と相談員竹原が援助に加わりました。

勝楽夫婦は、強制的に断種手術を受け、子どもを持つことを許されなかった苦悩を人形作りの中で乗り越えようと言われた人生を話されました。

それを受けた北風さんはふくろう工房での勝楽さんとの新しい人形作りなどを話されました。大矢施設長の補足は、戦中の断種法と言われる「国民優性法」などの当時の社会情勢から高齢聴覚障害者の人権蹂躪という事実、それに抗えなかつたこと、更には、現在すすめられている出生前診断についてみんなで考えていきましょうと呼びかけました。出前講座のご依頼がありましたら、ふくろうの郷までお問い合わせ下さい。

(相談員: 竹原哲章)

# 不幸な二人の間が良好な関係に

## ふくろうの郷があるから…

生活支援係 山西 梓

7月23日の全体会議にて、辛寫シツカさんの甥、辛寫正さんから、シツカさんの生立ちと正さんにとつての叔母さんについて聞かせて頂きました。

熊本県で生まれ、父は優しく、母が厳しい方だった。9歳の時に自転車で転倒し頭を打ったときに聞こえにくくなった事、7歳の時にトロッコで右腕をケガし力が入りにくい事等、辛寫シツカさんについて初めて知る事ばかりでした。

### ふくろうの郷があるから 今は、心に余裕

シツカさんが職場で旅行へ行った時の写真を見せてもらった時、「外ではこんな風に笑っているのだ」と思った程、家では笑顔を見ることがなかったそうです。正さんにとつてシツカさんは母親代わりの存在。衣食住を共にし、大学まで行かせてくれた事は感謝しているが、聞こえない事でコミュニケーションが図れず、心の面で不幸だった。と話されて



いました。しかし、今はシツカさんと正さんの間にふくろうの郷があるから、心に余裕が出来、今までの中で一番良好な関係になれていると話されました。ふくろうの郷が入居者さんの為だけではなく家族さんにとつても安心できる場に仕上がってはいけなさと改めて思いました。業務中は忙しく昔の話を聞く機会が殆どなく、このような貴重なお話しを聞くことが出来ていい勉強になりました。辛寫正さん、シツカさん、本当にありがとうございます。

### ふくろう大学 回想法 戦争体験から考えたこと

7月11日、回想法がありました。今回は「戦争」をテーマに語り合われ、私も援助員として加わりました。

戦争当時の写真を見て、参加した入居者さんの戦争の恐ろしさなどが思い出される瞬間の表情、動作を通して、戦争は「嫌だった!怖かった!」と当時の不安な思いがよく伝わってきました。

開戦や戦況をどのようにして知ることができたのか、聞こえない自分自身に置き換えて話を聞きました。

戦争を体験された入居者さんから、「暑くて目が覚めたら、戦争が始まった」「家族に教えてもらい、一緒に逃げた」「玄関の前に赤い旗があれば空襲警報で避難の合図、白い旗があれば大丈夫の合図」などを教わりました。

戦争を知らない私達には想像することができない、大変なことがたくさんあったのだらうと思えました。

話しを聞き、憲法9条を変えたり、戦争を起こしてはならないと強く感じました。

(生活支援係 宮崎希美)

## 102歳の寺岡初枝さん、98歳の土居文子さんを前頭に

・今年も「淡路島まつり」に参加しました・



▲土居さん(左)と寺岡さん(右) ・来年も来たいねえ

8月3日、66回目を迎えた淡路島まつりに、デフあわじ連をはじめ、地域交流会の皆様・ボランティアの皆様のご支援で今年も入居者23名が参加しました。案内放送では「入居者が毎年参加されていること。手のひらを上に投げてヒラヒラと声援を」と紹介され沿道から多くの声援をいただきました。暑い日が続きますが、娘さんと一緒に参加された最高年齢の寺岡初枝さん、土居文子さんも元気に参加。場内アナウンスで101歳の方が参加されているとの声に、寺岡さんが「私は102歳や」と叫ばれる元気さでした。また、「来年も来たいねえ」の一声に、暑さも忘れ元気をいただいた楽しい島まつりでした。(総務 中村公三)

# おのころの家



〒656-0025  
洲本市本町 3 丁目 1-10  
清水マンション 1F  
TEL・FAX 0799-26-0956

## 中川原ふれあいセンター

### への移転を心待ち

### 宮野延博さん(65才)



▲お正月の壁飾りをした宮野さん

山の中腹の一軒家、周りを田圃に囲まれたのんびりとした所で一人暮らしをされています。ご両親がおられた時は農業をしていて子どもの頃は牛で田を耕していたので、その牛の世話をしておられたようです。

家からの眺めは最高！

180 度一望できます。沢山の風車や鳴門大橋や、夏の風物詩慶野松原の打ち上げ花火も窓から見る事ができます。

日の出と共に起き、暗くなったら寝るといふ本当に理想的

去る6月29日、全国ろう重複障害者施設連絡協議会がさいたま市で行われました。「ろう重複障害者の支援に関する調査報告から見えてきたこと、考えるべき事」の講演に学びました。厚労省が新たに提案している「障害支援区分」については、聴覚障害者を50人全国から選んだモデル事業をする事が報告されました。

おのころの家は、ろう高齢者に加えて中途失聴難聴者の利用もどんどん増加している事からそのニーズを切り捨てたり、排除しない方向を強く求めています。そして認定区分と報酬をリンクさせない方向、正職員を80%確保できる方向を求めています。(橋詰)

な生活をされているようです。

## デイサービスで

### 入浴したい

平成19年6月より週2回の利用でしたが、一人暮らしをされていることで、入浴サービス等を希望されて、他のデイサービス事業所を週1日利用されている時もありました。しかし、宮野さんの意思疎通から意志決定までのコミュニケーションへの配慮が弱い事もあり、デイサービスの利用を断念し、おのころの家を毎日利用されています。

## 毎日通所して、

### 紐編み、箱入れの仕事

おのころの家では、主に紐作りをされています。8本の糸を交互に編んでいくのですが、どこから編み始めたのかちゃんとわかっていて、きれいな模様が出来上がっていきます。手作りのバッグの紐や

携帯ストラップになったりしています。最近では、線香の箱入れもされる様になりました。

これから、「おのころの家」は中川原地域ふれあいセンターに移転計画をしています。が、デイサービスの利用を楽しみにされています。その理由は「入浴サービスを毎日でも利用したい」という強い気持ちがあるからです。お風呂でおしゃべりもしたい、それが宮野さんの夢です。(支援員 藤本)



▲箱入れ作業に集中の宮野さん

# おのころ屋



〒656-0025  
洲本市本町7丁目3-41  
営業日時：月～金 9:00～18:00  
TEL・FAX 0799-22-6133

## お客様のニーズが 開けてよかった!

毎日暑い日が続き商店街を歩いている人がいません。どのお店も暇で時間を持て余している状態です。おのころ屋も同じく来客数が減りました。そこで以前から続けている移動販売を頑張ろうと話し合いました。いつも濱口君に移動販売をお願いしているのですが、「今日はたくさん売りたいので、原さんも一緒に行って販売をしてね」と誘い出されました。販売が終わりに、店に帰ってくるなり、原さんは「暑かった〜! 毎回濱口君は不満も言わず頑張ってるな〜」と日頃の苦労がわかったようです。原さんは今まで製造だけを担当していたのでお客様と接する事が無く、ニーズがわかりません。移動販売に出かけてお客様の「いつも焼きたてのパンは美味しいね!」とか「今日はケーキは無いの

## お知らせ

### 第4回城下町洲本レトロ なまち歩きの予告

第4回

### 城下町洲本 レトロなまち歩き

開催日時：平成25年10月12日(土)・13日(日)10時～17時  
開催場所：洲本市本町2丁目～山手3丁目  
(河本川沿いから東側)

おのころ屋の出店に参加。



▲いつも笑顔でお待ちしている濱口さん

「あんパンは粒あんしか食べないよ」と声を聞いて、売れ筋商品や逆に何故売れ残る商品があるのか少しわかってくれたことと思います。どうしても暑いときは冷たいものやさっぱりとしたものが食べたくなるので、パンに使う具体やクッキーの砂糖の量を調整しながら作っていきたいと思っています。これからもよろしくお願ひします。(職業指導員 岡本)



▲おしゃべりできるから人生楽しめるわ

「聞こえないことに気兼ねせず、笑ってお話できる場所が欲しい」と、難聴者の方の希望でミニ交流会を開きました。当日は、あいにくの雨模様となり、予定していたあじさいの見学をやめ、お香や石鹸を作る体験をしました。

### 人の中が嫌やけどやっぱり人生を楽しんで生きたい 難聴者ミニ交流会(7月4日)

**淡路聴覚障害者センター**  
 洲本市港 2-26  
 洲本市健康福祉館 3階

またこの交流会は、要約筆記通訳者研修会も兼ねており、まとめ会では、「難聴者の方の生活の様子がわかってよかった」と当事者の暮らしの背景を掴んで通訳に臨むことの大事さを、改めてこの会を通じて確認できたとの感想をいただきました。(竹内)

「聞こえないことに気兼ねせず、笑ってお話できる場所が欲しい」と、難聴者の方の希望でミニ交流会を開きました。当日は、あいにくの雨模様となり、予定していたあじさいの見学をやめ、お香や石鹸を作る体験をしました。

こないして書いてくれるん(要約筆記)がええわ  
 午後は、要約筆記を読みながらお話です。おひとりご「病院で先生がごにょごによしやべる。3回聞き返してわからんかったら、そのままにしてる」と言われると「そーや、ある、ある」と皆さん、次々と話が飛び出し、止まりません。  
 初めてご夫婦で参加されたTさんは「いつもは、人中にいくのも嫌で家にいることが多いですが、やっぱりこうやって笑って、お話できるところに出てきて、人生楽しんで生きていきたい」と、感想をお話し下さいました。

## 今までの苦しかった胸の内を吐露して

兵庫県聴覚障害者実態調査から

### 調査からみえてきたこと

Aさんは幼いころから家族とは身振りでお話してきました。健聴の奥さんと出会い、結婚。二児の父親として家族を支えています。子どもが成長するに従い、身振り手振りでは、細かなことが通じにくく、大切なしつけもほとんど奥さんが担っています。手話があまりできない奥さんや子どもたちとコミュニケーションが十分できず気持ちのすれ違いを感じています。また職場でも手話通訳保障は不十分で仕事の内容も納得できるものではなく、自分の存在を見いだせずになります。

### 「私も調査に協力するわ」と

日頃は、明るくボランティアにも積極的にでかけ、手話講習会の講師を務めるAさんからは想像できない、胸の内を聞

かせてもらいました。今までの語

### 自分の気持ちと重なり合って

れなかつた想いを話せたAさんは、今度は、他のろう者の家へ調査員として同行することを自ら申し出、気さくな会話の中から色んな話を引き出してくれました。父として、夫として、また職場でも自分の存在を見出せずにいる様子を知り、自分の役割を發揮でき、人としての存在を大切にされていると感じられる社会を作ることの必要を感じました。

(手話サークルあわじ 大道)



▲たくさんの想いが手話となって

その時、「そうか、自分も今まで胸に閉まっておいたことを吐き出せるのだ」と思い、Bさんの訴えに強い衝撃を受けると共に、Bさんの気持ちと自分のこれまでを重ねて考えました。そして、実態調査は意義深いことだと実感しました。  
 (淡路聴覚障害者協会 赤井良次)



# 続・地域を語る

## 第56号

### 宮相撲の力士たち

て、その名が高かった。

#### ○岩蔵閣

背が高く、上手吊り出しの名人、四ツに組み、上手が相手の禪に掛ると、しめたとばかりに、片屋の上より四方の観客をちらつと見ると、にっこり笑って、ヤトマカセと大声で吊り出すのが得意だったので「岩蔵相撲ぢや、ヤトマカセ」と語り伝えられていた。

#### ○岩の戸

体格肥大で技能力士、負けを知らぬ大関格であった。

#### ○井手が谷

素早い取り組で下手喰込みの名人である。

#### ○先の山

カズキの名人。下手へ喰入れば強敵でもカズキ飛ばした力士で、惜しくも急逝された。

#### ○鳴滝

体は大きくないが技能に勝れ、千遍万化の取口の鮮やかさに人気がわいた。初め鳴勇と称していたが、先代鳴滝を継いでから有名になった。

#### ※中川原村史より

いずれも年代は不詳

○一の峯親分  
取らず親方にて、後進弟子の養成に全力を尽くし、相撲場には常に顔を見せていた。

○熊助  
力量に秀でて、鳴滝と称し

○小石川親分  
角道界の大親分で、大きな布袋腹を抱えて常に大勢の力士を養成あり、家業は酒と荒物及び種油の搾取機を揃えて製油あり、人呼んで油屋、油由と称していた。

## 夏の風物詩 地域の方と そうめん流し

暑い日が続く中、涼を求めて毎年催される夏行事の一つ、そうめん流しが7月7日(日)に行われました。

前日から地域交流委員会の準備をされました。当日は、とてもよい天候に恵まれ、入居者・職員一同涼しげな夏の風物詩を楽しむことができました。流れてくるそうめんを「掴め



▲そうめんの味に満面の笑顔

(生活支援係：畠田亜由美)

た!」「掴み損ねた...!」と楽しみながら、おいしく食べる事ができたようです。いつもは居室にこもりがちの谷村正雄さんも「そうめん、おいしい!」と太陽に負けないくらいまぶしい笑顔を見せてくださいました。

### いつもご支援ありがとうございます



▲技術のいる竹割です

毎年恒例のそうめん流し。暑い中、地域交流会の皆様が太くて長い竹を切ってきてくださり、前日の準備に本番にと大活躍してくださいました。8月24日、25日にはふくろうふれ愛まつりの「かかし作り」にご活躍いただきます。

ひとりひとりを大切に 共に生きる  
施設、地域、社会をめざして  
あなたも一緒に働きませんか!!

## 職員募集中!

募集職種：介護職・看護職・管理栄養士

給与待遇：当法人規定による

応募資格：有資格者優遇

社会福祉士、介護福祉士、  
介護支援専門員、管理栄養士、  
手話通訳士、看護師、准看護師など

選考方法：書類（履歴書、小論文「淡路ふくろうの郷で私のできること、実現したいこと」1000字以内）

応募締切：2013年9月12日(木) 必着

採用試験：2013年9月22日(日) 9:30~  
レポート試験・面接

\*結果は、後日、本人宛郵便で通知します。

連絡先：特別養護老人ホーム淡路ふくろうの郷

TEL 0799-25-8550/FAX 0799-25-8551

(総務/中村、橋詰)

### 作品紹介



▲長田道子さん(81歳)

### ふくろう大学 書道講座

7月23日



▲講師の佐藤智也子さん